

(3) ダ イ ズ

主要病害虫別防除方法

農薬による防除については、栽培ステージ、病害虫の発生状況等に応じて、散布、灌注、土壌消毒などを行う。

なお、農薬による防除の際は、農薬登録内容や使用上の注意等を遵守して実施する。

(農林水産省農薬登録情報提供システム <https://pesticide.maff.go.jp/>)

病害虫名 (病原体)	農薬によらない防除	
ウイルス病 類 (SoyMV) (SBMV)	①無病株の種子を用いる。 ②発病株は、早めに抜き取る。	
	【参考事項】 アブラムシ類が媒介する(アブラムシ類の項参照)。ダイズを侵すウイルスは13種類ある。このうち、褐斑粒を生じるものが5種類、種子伝染するものが7種類ある。	
菌核病 (<i>Sclerotinia</i>)	①多発ほ場では、連作しない。 ②密植や窒素肥料の過用をさける。 ③田畑輪換をする。	
	【参考事項】 開花期以降の発病が多く、多雨の年は発生が多い。	
黒根腐病 (<i>Colletotrichum</i>)	①多発ほ場では、連作しない。 ②排水を良くする。 ③被害茎葉は、集めて処分する。 ④1年休耕して夏期湛水処理を行う。 ⑤3年単位以上の田畑輪換をする。	
	【参考事項】 土壌伝染する。	
さび病 (<i>Phakopsora</i>)	①多発ほ場では、連作しない。 ②被害茎葉をほ場に残さない。 ③密植や窒素肥料の過用をさける。 ④田畑輪換をする。	
	【参考事項】 は種期が早いほど発生が早く、被害も大きい傾向がある。	 発病葉
紫斑病 (<i>Cercospora</i>)	①健全種子を使用する。 ②被害茎葉は、集めて処分する。	
	【参考事項】 種子伝染する。子実、葉、茎、莢などに発生し、空気伝染で広がる。 結実期が多雨冷涼の年に発生が多い。 収穫後の乾燥が遅い場合に発生が多くなる。	 紫斑病 (種子)
白絹病 (<i>Sclerotium</i>)	①多発ほ場では、連作しない。 ②密植や過繁茂をさける。 ③排水を良くする。 ④田畑輪換をする。 ⑤は種前に石灰を10 a 当たり150~200kg施用する。 ⑥被害茎葉は集めて処分する。	
	【参考事項】 土壌伝染する。 ダイズのほか、イネ科、ナス科、ウリ科など多種類の作物を侵す。 麦わらなどの粗大有機物の投入は、発生を助長する。	
立枯病 (<i>Fusarium</i> , <i>Gibberella</i>)	①健全種子を使用する。 ②多発ほ場では、連作しない。 ③排水を良くする。 ④被害茎葉は集めて処分する。	
	 紫斑病 (子葉)	

病害虫名 (病原体)	農薬によらない防除
カメムシ類	①レンゲやクズなどマメ科の植物や雑草を除去する。 【参考事項】 加害(吸汁)するカメムシ類は、ホソヘリカメムシ、イチモンジカメムシ、アオクサカメムシ、ミナミアオカメムシなどである。 荒地や雑草地などの隣接地から飛来する。  ホソヘリカメムシ イチモンジカメムシ アオクサカメムシ(幼虫) ミナミアオカメムシ(幼虫)の寄生状況
アブラムシ類	①ほ場および周辺の雑草を除去する。 ②早播きをさける 【参考事項】 ジャガイモヒゲナガアブラムシは直接吸汁害の他に病原ウイルスを媒介するので、初期防除に努める。
コガネムシ類	①必要以上に有機物を施用しない。 【参考事項】 マメコガネ、ヒメコガネ、ドウガネブイブイなどが葉を食害する。5月上旬に気温の高い年に発生が多い。  マメコガネ
フタスジヒメハムシ	①収穫後に畑内の落ち葉をすき込む。 【参考事項】 成虫は葉、子葉、茎、莢を円孔状に食害し、幼虫は根粒を食害する。 莢の食害は黒斑粒の原因となる。 多発地ではダイズの初期生育が阻害されるが、地力のないほ場では被害が大きくなる。 成虫が畑や畦畔の落ち葉や草の間で越冬する。
ダイズサヤタバエ	①莢に毛がない品種や莢の毛が長く密で、突立っている品種は被害が少ない。 ②疎植にする。 ③被害の少ない品種を栽培する。 ④ダイズとサツマイモの混作をする。 【参考事項】 被害莢は生長しないで落下する。1粒だけ害された莢は不正形となる。 開花期と成虫の発生盛期が重なると被害が多い。周囲に山か林のある畑では被害が多い。
マメシシイガ	①収穫後は、速やかに耕耘し連作をさける。 【参考事項】 比較的冷涼地を好み、年1回の発生。土中で越冬し連作すると発生が多くなる。
シロイチモジマダラメイガ	①収穫後は、速やかに耕耘し連作をさける。 【参考事項】 極早生種と中晩生種では、中生種より被害が少ないことが多い。年3～4回発生し、土中で越冬する。
サヤムシガ類	①収穫後は、速やかに耕耘し連作をさける。 【参考事項】 極早生種と中晩生種に被害が多い。 被害葉内や土中で越冬する。
ハスモンヨトウ、オオタバコガ、シロイチモジヨトウ	①白変葉は、発見したら適時除去する(ハスモンヨトウ)。 【参考事項】 薬剤防除を行う場合は、薬剤感受性低下が危惧されるので、効果が劣った場合は、直ちに他の系統の薬剤で防除する。
ハダニ類	①発生源になる周辺雑草や作物残さを除去する。 ②ハダニ類の天敵が自然発生する条件を作るため、ハダニ類以外の害虫防除に天敵類に影響の少ない殺虫剤を使用する。 【参考事項】 主にナミハダニ、ニセナミハダニが寄生する。